

清田高校での実践概要

1 実施日

令和3年12月14日（火）13時15分～15時05分（5時間目及び6時間目）

2 対象者

市立札幌清田高等学校 1年次6組 全39名

3 実践の位置付け

高校向けの「新たなせんきょ体験授業」プログラムを創出することを目的に、検討プロジェクトチームのもとで検討を重ねてきたプログラム案を試行し、完成版へと導くための「モデル校」として実践するもの

4 授業形態

令和4年度から実施される新科目「公共」の授業を意識し、主体的・対話的な授業や主権者教育といった側面から、特別授業という形態で、1年次の「倫理」の授業時間に展開

実施に当たっては、札幌市選挙管理委員会事務局が主体となり、佐藤学・札幌市選挙管理委員会事務局長が司会兼メイン講師を、岸本学・同事務局管理係長がサブ講師を務め、一部の検討プロジェクトチームメンバーも参観し、教員が準備、補助として関与

5 会場

市立札幌清田高等学校の1年6組の教室を主会場とし、模擬投票の際には、主会場と隣接する「特別教室」を使用

6 授業展開

(1) 授業の目的を確認（講義）

佐藤事務局長から、「せんきょ体験授業」の目的は、①選挙の仕組みや投票に行く意義を理解し、選挙や政治に関心を持ってもらうこと、②実際の選挙の際に自分が何を基準に投票先を選択するのかを、現実 に即して体験してもらうことにあり、これをきっかけに、「必ず投票に行かなきゃ」「選挙って難しくない」と思ってほしいと願っていることを生徒に伝えた。



この時点で行った「18歳になったら投票に行きますか」というアンケート（設問1）に対する回答結果は次のとおり。

選択肢	人数	割合	選んだ理由（例）
行く	20人	51%	○18歳になったら選挙に行くものだと思っているから ○自分たちに与えられた権利だから ○その地域に住んでいる一人として意見や考えを投票という形で示したいから
どちらかと言えば行く	10人	26%	○選挙について知ってから行きたいから ○投票に行かなければいけないという雰囲気があるから
どちらかと言えば行かない	4人	10%	○あまり選挙のことが分からないし、面倒だと思うから
行かない	2人	5%	○政治に興味がないから
わからない	3人	8%	○どの人に投票したらいいか考えたことがなかったから

(2) 過去の実際の選挙公報をもとに投票先を選定（個人ワーク）

佐藤事務局長から、選挙公報について、①候補政党・候補者側が原案を作成し、選挙管理委員会が発行する公的な公報であること、②選挙期日の二日前までに、全世帯に配布されるものであることを説明した上で、実際に投票先を決める際には、一つの基本的な判断材料となるものであることを生徒に最初に伝えた。

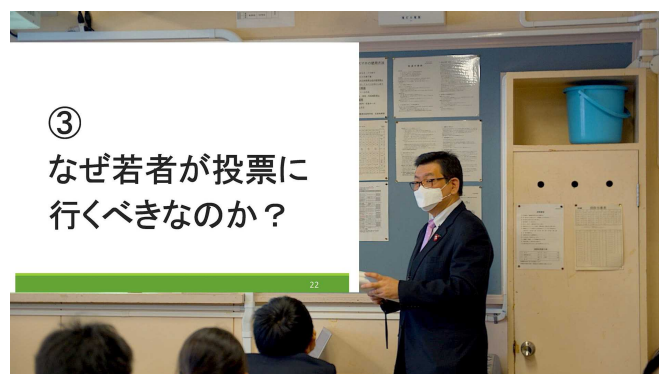
生徒は、制限時間5分間で、令和元年7月の参議院「比例代表選出議員」の選挙公報をもとに、そこから得られる情報だけを基礎にして、どの政党に投票したいかを独力で選び、「ビフォー・アフター用紙」のビフォー欄に、理由と合わせて記入。

なお、「ビフォー・アフター用紙」は回収しないので、この時点での生徒の投票傾向は不明。



(3) 選挙の仕組みと投票参加の意義を学ぶ（講義）

岸本管理係長から、選挙の仕組みを簡単に説明したのち、「なぜ若者が投票に行くべきか」をテーマに掲げ、二つの答えを提示したい旨を生徒に事前告知。

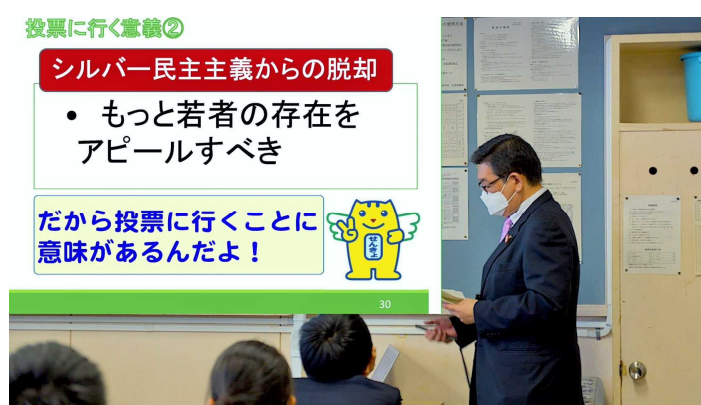


一つ目の回答として、国民主権のもとで議会制民主主義をとる我が国において、自分たちのことは自分たちで決めていくためにも、自らの代表者を選ぶことのできる権利「選挙権」を、行使するべきだということを提示。

次に、二つ目の回答を提示する前に、①若年層の有権者数が相対的に少ないこと、②年代別投票率は高齢者ほど高く若年者ほど低い傾向にあること、③20歳代以下と50歳代以上とでは投票の際に重視するテーマが異なることの3点を示した上で、「自分が候補者だったら、当選するためにどんな作戦を立てるか」と生徒に質問。「高齢者を重視する政策を訴える必要が出てくるのではないか」という返答を生徒側から引き出すつもりだったが、残念ながら時間の都合上、講師から伝えることとなった。



最後に、二つ目の回答として、公正な選挙の結果として「シルバー民主主義」が生じているとの指摘もあり、そこから脱却し、自分たち若者世代の求める政策も取り入れられた社会実現のためにも、若者が投票に参加し、自らの存在をアピールするべきだと訴えた。そして、「若者を含め、全ての人が暮らしやすい国や地域、社会をつくるためには若者の皆さんの投票参加が欠かせない」というメッセージを伝え、約20分間の講義を締めくくった。



(4) 社会の諸課題への関心を広げる（グループワーク）

追加資料として配布された、早稲田大学マニフェスト研究所作成の「政党公約政策比較一覧」を題材に、生徒は個人ワークで、一覧表に掲げる政策テーマの中から、関心のあるものを一つ又は二つを選択。

次に、佐藤事務局長から、「自分の関心のある政策テーマ」を議題とし、グループ内で順番に一人ずつ、自分の関心事を互いに教え合ってもらいたいことと、その意見交換

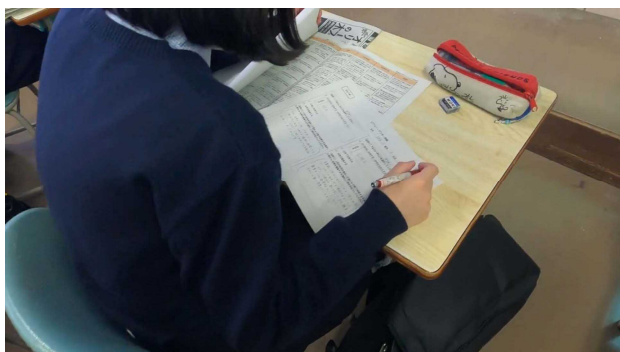
を通じて、「自分自身の関心の幅を広げてほしい」というねらいを伝えた。
生徒は、制限時間5分間で、意見交換を行った。



(5) 投票先を決めるための自分なりの選択基準を持つ（個人ワーク）

生徒は、制限時間 15 分間の中で、「政党公約政策比較一覧」を題材に、改めて関心のある政策テーマを三つ選択。そのテーマごとに各政党の考えを読み比べ、自分の意見に一番沿うものに丸印を付けた上で、投票先を独力で選び、「ビフォー・アフター用紙」のアフター欄に、理由と合わせて記入。

なお、佐藤事務局長から事前に、「丸印の数が多い政党を選んでもいいし、一つしか丸印が付かなくとも一番大事だと思うテーマで丸印が付いた政党を選んでもいい。あるいは、一覧にはないが選挙公報に掲載されている政党から選んでもいい。それが自分なりの選択基準だと思うので、その考え、感じ方を大切に」と伝えた。また、ワーク開始から 10 分経過後には、「ベストな政党がないかもしれない。でも、ベターな政党を選ぶという視点に立てば、少し楽に選べるかもしれない」と助言。



この時点で行った「ビフォー・アフター用紙のビフォー欄とアフター欄とを見比べて、変化があったか」というアンケート（設問2）に対する回答結果は次のとおり。

選択肢	人数	割合
変化した	30 人	77%
変化していない	9 人	23%

また、「投票先を選ぶに当たって、どの政策テーマに関心あるものとして抽出したか」というアンケート（設問3）に対する回答結果は次のとおり。

順位	選択肢	延べ人数
1 位	教育	18 人
2 位	働き方	14 人
	環境	14 人
4 位	原発・エネルギー	11 人
	子育て	11 人
6 位	消費税 10%	10 人
	社会保障	10 人
8 位	憲法改正	7 人
9 位	外交・安全保障	6 人
10 位	経済・アベノミクス	5 人
11 位	SDGs	3 人
12 位	女性活躍	2 人
13 位	災害・復興	1 人
	政治・行政改革	1 人
	その他（年金・財政）	1 人
合計		114 人

さらに、「ビフォー・アフターの個人ワークをやってみて、自分が投票先を選ぶに当たって、どのようなことが大切だと感じたか」というアンケート（設問4）に対する回答結果は次のとおり。

分類	件数	例
情報収集の必要性やそれを比較しながら主体的に選択していくことの重要性など、投票先を選ぶ際のプロセスや心構えなどに関する意見	31 件	○各党が優先している政策について知ること ○一つの情報だけで決めるのではなく、色々な情報を見て聞いて比べてから投票先を選ぶのが大事 ○何となく決めるのではなく、そこを選ぶ理由をしっかりと持つこと
自分が何を重視して投票先を選んだのか、その選択基準を述べた意見	7 件	○特定の人でなくて国民全体に関係することを実現してくれる政党 ○政策の具体性と実現できるかどうか
その他	1 件	○様々な資料を見て自分なりの考えを持てた

(6) 投票を体験する（模擬投票）

生徒は、ビフォー・アフター用紙のアフター欄に記入した内容に基づき、特別教室に設置した模擬投票所にて、一人ひとり投票を行った。

その際、事前に佐藤事務局長から、今回の模擬投票では「候補者名」を記載するのではなく「政党名」を記載するようにと周知したが、投票用紙自体に「候補者名」を記載するよう印字されていたことに加え、記載所に貼り付けた氏名等掲示には「政党名」と「候補者名」の両方が記載されていたこともあって、模擬投票では、「候補者名」の記載により「無効票」の扱いとなった投票が3票あった。



(7) 過去の実際の選挙結果と校内の開票結果を比較しながら振り返る（個人ワーク）

校内の開票結果集計を待つ間、過去の実際の選挙結果をもとに、「何か気付いたことがあるか」をテーマに複数の生徒が発言。

生徒からは、「他の年代に比べ、18歳・19歳の年代は『どの政党に投票したかわからない』と答えた人の割合が高い」などの発言があった。



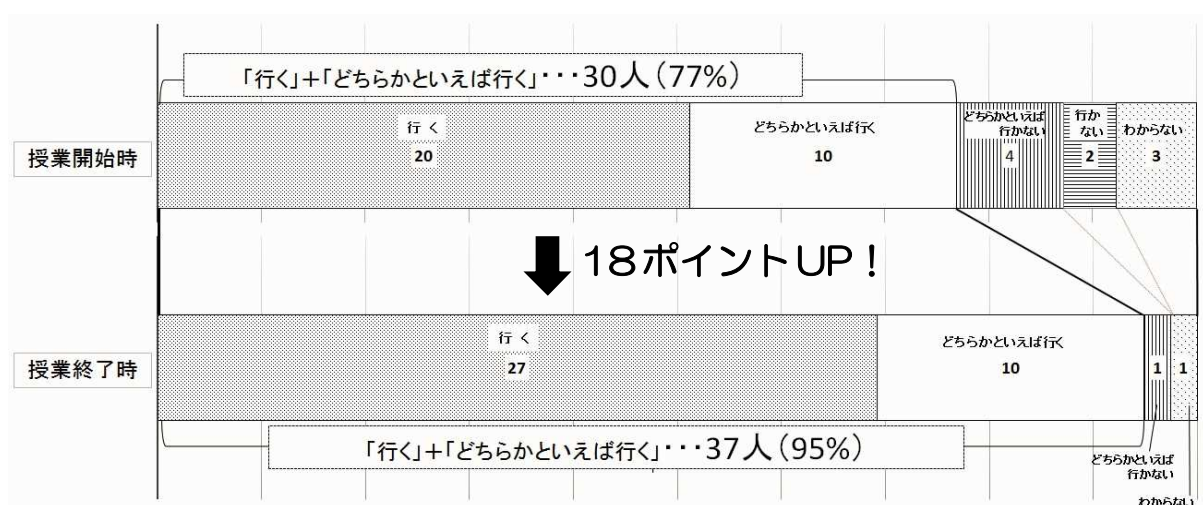
校内の開票結果が出たのち、「過去の実際の選挙結果と校内の開票結果とを比較して、自分の思うことを記入」というアンケート（設問5）を実施。回答結果は次のとおり。

分類	件数
過去の選挙結果と校内の開票結果とを見比べて、違う点を指摘したもの	19件
過去の選挙結果と校内の開票結果とを見比べて、似ている点を指摘したもの	6件
過去の選挙結果又は校内の開票結果のいずれかのみ、その特徴を指摘したもの	9件
過去の選挙結果において、10代の人が「わからない」と回答している人が多いことを指摘した上で、「（若者は）もっと選挙について考えるべき」と自らの考えを述べたもの	1件
その他（無記入を含む）	4件

また、この時点でもう一度行った「18歳になったら投票に行きますか」というアンケート（設問6）に対する回答結果は次のとおり。

選択肢	人数	割合	選んだ理由（例）
行く	27人	69%	○自分たちの将来をより良くするため ○前より選挙を身近なものとして感じる事ができたから ○自分たち世代の意見が少しでも反映されるなら行きたい
どちらかといえば行く	10人	26%	○自分の選んだ政党でいいのかぎりぎりまで悩むと思うけど、気軽に考えて、投票してみようと少し思った
どちらかといえば行かない	1人	3%	○政治に興味がないから
行かない	0人	0%	
わからない	1人	3%	○行けるタイミングや時間があれば行くと思うが、忙しければ行かないということもあるかもしれない

なお、授業開始時と授業終了時の「18歳になったら投票に行きますか」というアンケートの回答結果比較は次のとおり。



(8) 締めくくり

佐藤事務局長から、この授業を一つのきっかけに、「18歳になったら必ず投票に行かなきゃ」と思ってもらいたいことと、選挙に対する心理的ハードルが少しでも下がり、「完璧を求めずに、その時の自分の関心と理解で選挙に臨んでもいいんだ」と思ってくれたら嬉しいということを伝え、授業を終えた。

